



コロナ下でも、学びは止まらない

昨年春、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、大阪府下の小・中学校などが一斉休校となりました。今でも市内の学校が新型コロナウイルスの影響で学級休業などを強いられることがある中、子どもの学びを止めないよう、オンライン授業などを行っています。新型コロナウイルスの影響で学校生活は大きく変わりましたが、子どもたちは変わらぬ笑顔で学んでいます。

図 教育指導課（☎813・0071）

マスクでも伝わる

笑顔あふれる授業

市立堀溝小学校3年生のクラスで、国語の授業が始まりました。

この日の授業は、ローマ字を打つ練習や漢字（熟語）の復習。児童は隣同士でペアになり、タブレット端末を使って「この漢字を使った熟語は、ほかに何かあるでしょうか」「これは何画目でしょうか」など、クイズ形式で漢字の復習をしています。今まではこのような反復の学習はカード

を使っていたそうですが、「タブレットを使用するほうが児童たちも興味・関心を持って取り組むことができる」と、担当教員は言います。

新型コロナウイルス感染症拡大以降、マスク姿の児童が当たり前になりました。タブレットもマスク姿も、数年前には考えられなかった光景ですが、タブレットを上手に使って楽しみながら学ぶ児童たちから

は、マスクをしていても笑顔がうかがえます。

タブレットで

一人一人に合った

教育を

市では、昨年12月末に児童・生徒全員にタブレットの配備が完了し、毎日の授業で役立てています。

タブレット学習のメリットの1つは、個に応じた学習を進めることができる点です。児童・生徒は、それぞれの興味や関心に応じ、タブレットを活用して調べ学習を行うなど、自分のペースで学習を進めることができるため、理解が深まります。

また、タブレット学習で使用する学習支援ソフトにより、教員は児童・生徒の理解度を把握できるため、きめ細かな指導を行うことができますという教員にとってもメリットがあります。

タブレットは自宅学習でも活躍。Wi-Fiと異なりどこでも使えるLTE対応のため、自宅でもインターネットを利用すること

ができ、いつでもどこでもタブレットを使った学習に取り組むことができます。

教員の学びにも

コロナ下でも教員の学びを止めないために、ウェビ会議システムZoom（ズーム）を使ったオンライン研修を実施しています。大学教授などの有識者からの講義をとおして学ぶとともに、学校を超えたグループで交流したり、チャットで意見交換したりと、多様な活用をしています。参加した教員からは「他校の先生との交流をとおして、たくさんの方のアイデアを共有できた」などの感想が挙がっています。



▲ オンライン研修の様子

垣内 授業が始まる前には、画面越しに生徒たちの名前を呼び、

神戸 生徒たちが無事オンライン授業にログインできるかなど不安があったため、初日の1限目は全てのクラスでホームルームとしました。不具合が起きた場合に対応するためです。ですが、「タブレットは文房具の一部。使わないと意味がない」という楠校長の考えから、常に生徒に触れさせていたこともあり、スムーズに取り組めたと思います。

垣内 すぐに教材研究などを行い、何ができるかを話し合いました。オンライン授業を行うことが決まれば、タブレットが得意な教員が準備を手伝うなど、前例のない状況に協力し合いました。日頃の教員同士の絆が発揮されたと思います。

神戸 生徒たちが無事オンライン授業にログインできるかなど不安があったため、初日の1限目は全てのクラスでホームルームとしました。不具合が起きた場合に対応するためです。ですが、「タブレットは文房具の一部。使わないと意味がない」という楠校長の考えから、常に生徒に触れさせていたこともあり、スムーズに取り組めたと思います。

休校は突然に

ない人によって希望する研修内容に差がでてきたので、習熟度別にコースを分けていきました。研修外でも、教員同士で教え合い、議論するようになり、気が付けば「生徒たちのために」と、今まで以上に強い絆が生まれていました。

オンライン授業経て新たな発見

神戸 今回のオンライン授業について、生徒にアンケートした結果、多くの生徒が「よかった」と答えてくれた一方、勉強しやすい方法として「ノートに書く」との意見も多くありました。タブレットか紙媒体か、学ぶ手段を生徒が選べるようにすることが重要だと思います。



■ 垣内 勇人 先生 ■



■ 神戸 薫 先生 ■

準備で生まれた教員同士の絆

神戸 昨年の10月頃から、校内の教員で研修会を進めてきました。当時はタブレットが今みたいに配備されていない中で、みんなで実際にタブレットを使ってみることにしました。それまで教員が生徒役となる研修が多かったため、本校ではグループ研修をとって生徒役と先生役をローテーションできるようにしました。

垣内 研修が進むにつれ、タブレットに慣れてきた人と自信の

「子どもたちの学びを止めてはならない」。教員たちから声が上がりました。コロナ下でICT教育が加速する中、楠校長の「もし休校になったら、常に意識しよう」という日頃からの言葉の下、生徒たちに何が出来るかを議論してきた教員たち。試行錯誤を重ねる中で、その日は突然やってきました。感染拡大防止のための市独自の対応方針に基づき、5月に2週間の臨時休校（学級によっては3週間）となった市立第二中学校。休校の2週間をオンライン授業で通常の時間割どおりに行うことができた裏側を、2人の教員に聞きました。

※ICT: Information and Communication Technologyの略語で、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを活用した情報通信に関する技術の総称

市立第二中学校

「全授業を完全オンライン」実現

コロナで突然の休校：それでも学びは止めない



双方向授業に感動

はたまさひろ
秦正弘さん(PTA会長)

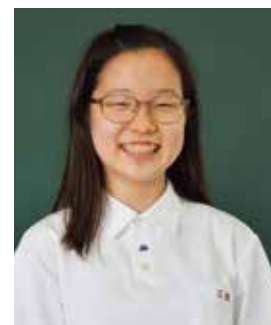
昨年3月の一斉休校の際には一方通行のオンライン授業でしたが、今回は、双方向の授業となっていて「すごいな」が素直な感想です。子どもに感想を聞くと、第一声「おもしろかった」と返ってきて安心しました。周りの保護者からも好評の声が多く、先生が工夫してくださった結果だと思っています。

制服で気持ちの切り替え

み た はる ひ
三田春陽さん(2年生)

オンライン授業のときも制服を着て、気持ちの切り替えをしました。自室にこもって、大好きな本も片付けて授業を受けると、とても集中できてよかったです。

普段の授業では、タブレットを利用した国語の暗唱やプレゼンテーションが楽しかったです。タブレットは書いたことを消したりすることも簡単だし、黒板が反射して見にくいということもない点が便利です。



ポジティブに捉えた

こ は つ
古波津マリアさん(3年生)

受験を控え、自分たちだけがオンライン授業となり、不安や焦りはありました。でも、先生たちが工夫して授業してくれたから集中して取り組みたい、私自身も「負けないぞ」とポジティブな気持ちで勉強ができました。

タブレットを使った美術の授業は、色を試したりできて、とても楽しかったです。

英語 村



「オンラインで楽しく英語を学ぼう」

外国語講師と英語だけでコミュニケーションをとります。夏休みにはタブレットを自宅に持ち帰り、児童・生徒たちは家に居ながら英会話講座を受けることができます。

中学校3年生 総合



「ディベートで考える力を育てよう」

タブレットを使ってデータ・資料の収集や発表する際の提示資料の作成などをします。「発表が苦手だったけれど、積極的に発言できるようになった」との声も。

小学校6年生 図工



「線対称な世界に一匹だけのチョウを描こう」

いろいろなチョウを調べ、色合いや細部の色について確認し、自分の作品作りにいかしています。

小学校6年生 体育



「跳び箱の踏み切りや着地姿勢を確認しよう」

自分の取り組む姿を撮影してもらい、グループで確認し、改善に向けて取り組んでいます。

小学校2年生 生活



「野菜の様子をタブレットに描こう」

校内の畑で育てている野菜を観察し、タブレットで撮影した記録を見直して、自分のノートにまとめています。

タブレットでこんなことも!!